

教職大学院 NEWS



三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻

第16号 H31.2月発行

2年間の学びの成果を実感できた!! 教職大学院1期生 最終成果報告会

2月21日(木)に、本学教職大学院の記念すべき1期生の、2年間の学びの集大成とも言える「最終成果報告会」を開催しました。教職大学院では、院生に「学修テーマ」を決めたいうえで入学していただいています。この「学修テーマ」は、教職大学院での2年間を通して解決の道を探求していく、学校や地域等の教育課題です。

1期生は、この2年間、自身の「学修テーマ」について、大学教員や同期入学生たちとともに、多角的に広い視野から検討し、解決の道を探求してきました。その成果を『最終成果報告書』としてまとめました。

一人一人の院生が、学修テーマ設定の理由や、研究の目的、方法、考察、成果と課題等について、プレゼンテーションの形式で発表を行いました。発表の後には、参加者からたくさんの質問や感想、意見等が出され、一人20分の持ち時間は、あっという間に過ぎていきました。



学校経営力開発コース(現職教員学生)の発表では、自らの問題意識を問い直すところから始めて探求していったという話や、先行研究などや1年目の長期実習から得た学びから仮説を立て、それを2年目の長期実習等で検証していったという話、この2年間の学びによって自身の教育観が大きく変化したという話などが出されました。いずれの発表においても、その成果は学校現場等に還流するのに十分なものを備えていると感じられました。

また、教育実践力開発コース(学部新卒学生)の発表は、2年間の長期実習の成果等をふまえ、今後の教員生活に資する、実践的な内容のものでした。特に、教職大学院での2年間の学びについて、「自分の学習観や教育観が変容するのを経験した。もし、大学卒業後に教職に就いていれば、自分の授業スタイルは、自分が学生であったときの体験に強く影響されていたろう。教職大学院での学びによって、それを乗り越えて、多様な生徒に対応した授業を行うために理論が大切であることを学んだ。」という振り返りの言葉が強く印象に残りました。

発表を聞いていた2期生からは、「学修の成果は、学校現場でとても役立つもので、とても参考になった。」「自分も、1期生のように学修テーマを追求していきたい。」という声が聞かれました。

【1期生の学修テーマ一覧】

<学校経営力開発コース>	
角谷 道生	エピソード記述を用いた高校福祉教員の省察に関する研究
小宮 康子	授業づくりを中核に据えた学校づくりのための 校内研修システムの構築
杉野 拓也	体力向上に資する授業の改善—タブレット活用と協同学習—

世古 浩一	児童がタブレット端末を効果的に活用する授業と教員研修のあり方
野呂 貢一	実践より学ぶ「学びの在り方」の探究 —探究できる子どもを育むために教師は何ができるのか—
福永 名津	学校現場における教育相談の充実
古川 真由美	高校新卒就職者とその就職先事業所への調査から見る コミュニケーション能力の検証 —普通科高校におけるキャリア教育の改善をめざして—
牧野 江津子	小学校における「深い学び」を実現する授業の具体的条件の解明
水谷 佳満	小学校と中学校で実現可能なビジュアルプログラミング言語を用いた 授業づくり
峯下 隆志	高等学校において生徒に深い学びを実現する教員の専門性 —教員の実践における「省察的実践者」としての認識論 及び「教育工学」から見た授業スタイルに着目して—
< 教育実践力開発コース >	
浦口 真凜	小学校社会科における地域の素材をいかした教材の有効性に関する 事例研究—主に実習における授業実践を通して—
山中 眞帆	「伝わりやすい英語」の習得を目指した授業づくり
西田 郁美	中学校理科における見通しと振り返りを意識した学習指導
吉川 和希	小学校英語の授業の導入におけるSmall Talk活用の可能性
吉村 友希	英語科における文法事項の系統性を活用した言語活動の研究 —既出事項の定着と新出事項の理解をめざして—

2期生 ポスターセッション形式による第3回中間報告会 交流の深まりを実感！



2月7日（木）に、2期生による第3回中間報告会を実施しました。昨年度と同様、ポスターセッション形式による発表としました。院生たちは、自身の学修テーマについて、この1年でどのように再構築したか、来年度どのように探求していくのかなどについて発表を行いました。ポスターには、長期実習での学びからどのように

問題意識が変わったのか、来年度の長期実習で何を検証したいのか、今後どのように学修テーマを探求していくのか等について、図表等を使って具体的かつ簡潔に示されていました。会場全体は、活発に質問や意見等が出されるなど、とても充実した発表会となりました。参加した1期生が自身の経験からアドバイスをする姿や、同じカテゴリーの研究をしている1期生に2期生がアドバイスを求める姿が見られました。このように、異なる学年の院生たちが交流することにより、お互いに新たな気づきや学びが起きることを実感する場となりました。

院生たちは、本報告会での学びをもとに、それぞれの学修テーマについて、今後、さらに深めていくことでしょう。



編集・発行 三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻（教職大学院）広報担当

☎ 059-231-9319（学務担当）

〒 514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

URL <http://mkd.edu.mie-u.ac.jp>（教職大学院専用 HP）

✉ info-mkd@edu.mie-u.ac.jp